

熊谷徹著「ドイツはなぜ日本を抜き、「世界3位」になれたのか、「GDP 逆転」納得の理由」ワニブックス、2024年9月10日刊を読む

熊谷氏は、

- (1) 日本とドイツがたそがれ国家から脱却する方法が二つある。それは、高技能・高学歴移民を増やすことと、DX(デジタル化)だ。
 - (2) ドイツは、日本同様に人材不足が深刻化。2021年には、企業が採用しようとしても埋めることができなかった求人数は、198万人にのぼった。
 - (3) 特に、2020年代の後半から、多数のベビーブーマーが定年退職するため、毎年40万人の移民を受け入れなければ、今から30年後には、就業可能人口を現在に近い水準を保つことが難しくなる。そこで、シュルツ政権は、従来の制度を根本的に変え、ドイツは、米国やカナダのような移民国家になることを本気で目指していると述べています。
2. (1) 「まじめに働いて、税金と社会保険料を納め、法律・規則を遵守し、人権尊重・男女同権などドイツ社会の価値観を受け入れ、反ユダヤ主義・反イスラム主義などの過激思想を持たず、社会保障に依存しない外国人は、大歓迎。
- (2) 一連の改革の中で最も重要なのが、カナダの制度を見本に、『Chancenkarte(チャンスカード)』が導入されたこと。
 - (3) 語学力なら、ドイツ語の能力はCEFRでA1(6段階で最低レベル)、又は、英語の能力が少なくともB2。
3. (1) はじめて二重国籍も許可。
- (2) 18か月のチャンス滞在権期間の間に、ドイツ語を学び、職業に就いて自分で生活の糧を得られるようになれば、長期的な滞在許可を修得できる。
 - (3) インドなど新興国に抜かれて「たそがれ国家」への道を転がり落ちてゆく前に、日独が情報を共有し、経済活動の効率化と生産性向上への道を探ることは、重要である。
- *以上、本書より引用。

<コメント>

元NHK記者で、1990年からドイツに滞在、ドイツの知見を日本に伝え、日本の発展に貢献したいとの志の下、年に1回帰国し、著作活動や講演活動を30年間にわたりなされている、熊谷氏の最新の著作です。是非、ご一読ください。